

令和7年度 祝吉中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

| | | | | | |
|------|------------------------------------------------|-------|------|--------|-----|
| 学校名 | 都城市立祝吉中学校 | | 校長名 | 上徳 浩太郎 | |
| 学級数 | 21 | 児童生徒数 | 596名 | 職員数 | 51名 |
| 教育目標 | 豊かな心を持ち、確かな学力と体力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、自立できる生徒の育成 | | | | |

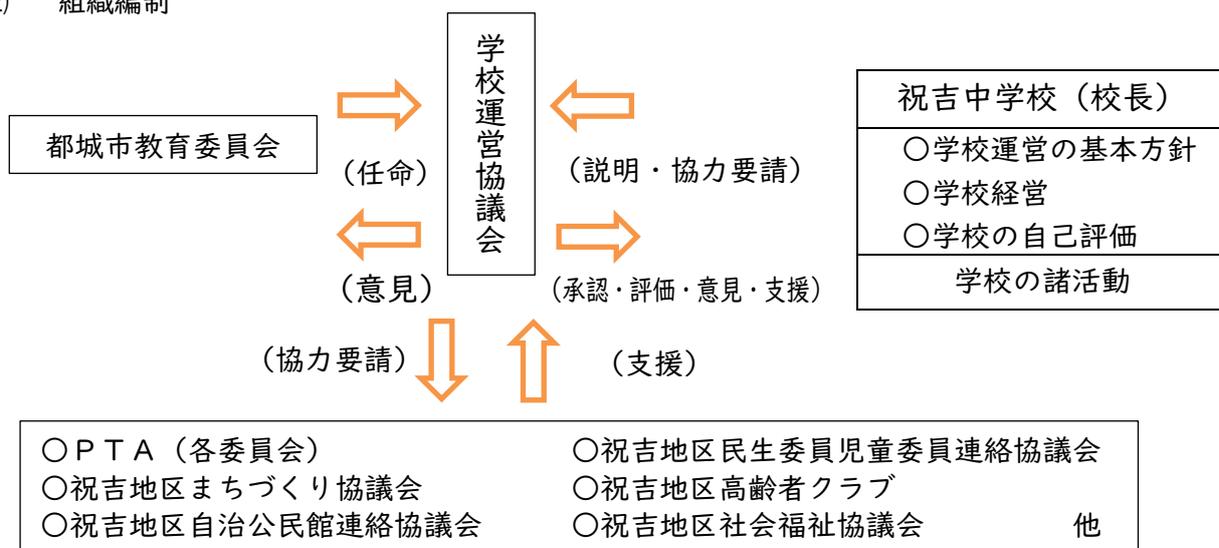
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

| 学 校 運 営 協 議 会 委 員 | No. | 所属名（役職） | 氏 名 | 備 考 |
|-------------------|-----|------------------|--------|-----|
| | 1 | 放課後こども教室コーディネーター | 永田 優 | 会長 |
| | 2 | スクールカウンセラー | 笠牟田 保昌 | 副会長 |
| | 3 | 地区民生・児童委員長 | 外園 文廣 | |
| | 4 | 地区民生委員 | 今井 司 | |
| | 5 | 地区まち協副会長 | 茶藪 洋子 | |
| | 6 | 前PTA副会長 | 山口 剛司 | |
| | 7 | PTA会長 | 永野 正和 | |
| | 8 | PTA副会長 | 中元 友樹 | |

| 事 務 局 | 役 職 | 氏 名 |
|-------|-----|--------|
| | 校 長 | 上徳 浩太郎 |
| | 教 頭 | 飯千 智晃 |
| | 教 務 | 湯浅 琢磨 |
| | 主 事 | 堀之内 尚志 |

(2) 組織編制



3 活動報告

| 月 日 | 主な活動及び内容 |
|--------|--------------------------------------------------------------|
| 5月 | ・民生委員によるあいさつ運動① |
| 6月20日 | ・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、協議会の趣旨説明、学校経営説明、授業参観） |
| 7月27日 | ・地域清掃活動 |
| 7月30日 | ・第2回学校運営協議会（祝吉地区小中学校合同学校運営協議会） |
| 9月 | ・民生委員によるあいさつ運動② |
| 10月9日 | ・第3回学校運営協議会（文化祭の参観、学校の現状説明、学校運営に関する協議） |
| 11月30日 | ・第4回学校運営協議会（授業参観、学校の現状説明、学校運営に関する協議） |
| 1月 | ・民生委員によるあいさつ運動③ |
| 2月6日 | ・第5回学校運営協議会（立志式、授業参観、学校評価に関する説明・協議、次年度の活動計画に関する協議、次年度への引き継ぎ） |

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさとを好きになる子どもを育てるために」

祝吉地区三校（祝吉中・祝吉小・川東小）の運営委員で、標記テーマを柱に、ワークショップ形式で熟議し、これからの祝吉地区の発展と課題について話し合った。意見交換された内容は以下のとおりである。

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| ・学校と地域の連携の在り方について | ・学校や地域行事の復活、関わりについて |
| ・学校と保護者、地域の関係が希薄化、協力を得るためには | ・交通安全、いのちの教育について |
| ・学校に登校することができていない児童生徒の対応について | ・学校施設、設備の老朽化について |
| ・教員不足、教員の働き方改革について | ・ボランティア活動への参加について 等 |

小中合同での開催は今年度で2回目であるが、引き続き、多角的な熟議を重ねていきたい。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

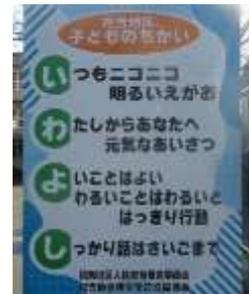
学校運営協議会委員の学校行事や参観日等の参加、民生委員による「あいさつ運動」のご協力をいただき、効果的な取組を行うことができている。地域とのふれあいを通して、生徒の健全育成を見守っていただいている。また、今年度は祝吉地区未来部会に「3年生の面接指導」の地域ボランティア協力を依頼し、6名の皆様が2回にわたってご指導くださった。加えて、老朽化した祝吉地区「子どものちかい」看板を一新していただいた。今後も、地域人材に学校の教育活動の支援を働きかけていきたい。



【民生委員によるあいさつ運動】



【地域人材による面接指導】



【看板のリニューアル】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

- 学校運営協議会を通じて、学校の様子や運営、教育課程実施について説明を行って意見をいただいている。委員の皆様から地域への周知等についても協力をいただいている。
- 年度末に実施する学校評価では保護者をはじめ、学校運営協議会委員、地域の方々（公民館長・民生委員）にいただいた評価や意見を次年度の教育課程の改善に役立てている。
- 今年度の学校行事やフリー参観日等には、学校運営協議会委員に加え、地域の方々（公民館長・民生委員）を案内した。昨年度より来校者は増え、開かれた学校として息を吹き返し、昔話をいただける場面も多かった。地域からの視点と効果的な助言を参考に熟議を重ねながら、本校の教育目標達成を目指して引き続き連携を図っていきたい。

(3) 地域貢献活動

- 自主的に「子どもまちづくり協議会」や「放課後子ども教室ボランティア」に加入し、ジュニアリーダーとして積極的に地域貢献をする生徒が増えている。
- 地域で開催される催しに、ボランティアとして積極的に参加できている。流れとしては、各公民館長から地区長の保護者に生徒ボランティアの要請があり、学校の地区担当職員で広報や集約を行っている。毎回多くの生徒が参加し、地域の一員として地域の方々との交流を深めている。
- 6月の参観日と抱き合わせて各公民館長に来校いただき、職員と地区別ボランティア活動の打合せを行った。夏休み中の「都城市環境美化の日」「夏祭り」に合わせ、各公民館区で清掃活動や地区祭りのサポート等のボランティア活動を実施した。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 地域からの学校教育への支援により、学校外の情報収集が図りやすい。 |
| ○ 学校運営協議会委員と共に学校行事等へ地域の方々に参加を促したことで、より開かれた学校として地域の声を耳にする機会が増え、助言や評価により学校経営の改善につながった。 |
| ○ 学校運営協議会委員の所属する団体から、様々な活動の情報が得られる。また、生徒が地域の一員としての自覚が高められる場として、地域の教育力の向上につながっている。 |
| ● 地域と学校の関係は回復してきているが、地域と家庭の関係はまだ希薄化している。年々、公民館加入率の低下を含め、学校PTAへの加入も懸念され始めている。 |
| ● 学校運営協議会を核として、地域や保護者、学校との関係性の構築をさらに図る必要がある。キャリア教育推進に向け、まちづくり協議会や社会福祉協議会等との連携を図っていきたい。 |

7 次年度の方向性

- | |
|------------------------------------------------------------------|
| ○ 引き続き、地域人材との協働による学校及び地域事業の活性化を推進していく。 |
| ○ 学校運営協議会の取組について、保護者や地域への発信をさらに強化し、学校と地域の双方に相乗効果が得られるような関係を構築する。 |